



2/21

村上の食の未来を考えよう

市民ふれあいセンター

▶第一部の試食を交えた情報交換会



『むらかみ「食のみらい」創造協議会』が主催する「食のおもてなし講座」が行われ、約150人が参加しました。

講座の第一部では、食による地域活性化などの活動に取り組んでいる株式会社自遊人代表取締役の岩佐十良さんをコーディネーターに、市内の生産者など4人をパネラーとして、「食」をテーマにパネルディスカッションを実施。第二部では、村上の食材と生産者を知ってもらうことを目的に15のブースで試食を交えての情報交換会が行われました。

参加した女性は「村上の食材のすばらしさを知ることができました。生産者の顔が見えてとても良かったです」と話していました。

2/28

市民栄誉賞の盾を贈呈

市役所応接室

▶市長から盾を受け取る平野英功さん(右)



平成30年4月に村上市市民栄誉賞第1号となった平野歩夢さん。その市民栄誉賞の盾ができあがり、市長から平野歩夢さんの父平野英功さんに手渡されました。

この盾は「村上木彫堆朱」で制作。上部が市の地形をかたどったもので、中部の堆黒部分が笹川流れの雄獅子岩を表し、下部は市の花のハマナスがデザインされています。

英功さんは「地元の伝統文化を感じるすばらしい一品。将来、記念館のようなところに飾ってみたい」と話していました。

3/1

初めての「おもてなし」を体験

向ヶ丘保育園

▶お茶碗の模様を見るのも楽しみのひとつ



今年も「ひなまつり茶会」が卒園間近の年長園児とその保護者を対象に行われました。

日頃は元気いっぱい保育園を走り回る園児たちもこの日はいつもと違う雰囲気緊張気味。神妙な面持ちで、初めて口にする抹茶に、保護者と顔を見合わせて笑みを浮かべる園児もあり、楽しい思い出のひとつとなりました。

3/1

乗り降りしやすくなった「あべっ車」が運行開始

新潟交通観光バス株式会社 村上営業所前



▶市の観光キャラクター「サケリン」がデザインされている



新しくなった、まちなか循環バス「あべっ車」の出発式が行われました。新しい車両は、33人乗りで乗降口のスライド扉の間口も広く、扉が開くとステップが上下する機能があり、乗り降りしやすくなりました。車いす用の着脱式スロープも設置されており、車いすの方も安心して乗車できます。

市長は「町中をやさしく走るバスとなっています。市民の皆さんや観光客の方の足となって活躍してほしい」とあいさつしました。

3/3

みらいファンド助成事業報告会 あらかわ地区まちづくり協議会

▶まちづくりに熱い思いを語る報告者



平成30年度に、あらかわみらいファンドの助成を受けた5団体が活動報告を行いました。

各団体は、荒川地区の「みらい」を想い描いてカタチにしていこうとする取り組みを、苦労話を交えながら報告し、事業継続に向けて熱い闘志を燃やしていました。

今年度の助成事業募集は、4月26日(金)まで受け付けています。詳しくは、あらかわ地区まちづくり協議会事務局(☎62-3102)までお問い合わせください。

3/2

こんな時、あなたならどうしますか？ 志田平集落開発センター

▶班ごとに自分の意見を出し合う参加者



志田平集落が、むらかみ出前講座『クロスロード～想像力を高めて「もしも」に備える～』を受講しました。この「クロスロード」とは、出題される震災時の状況を想像して、自分だったらどのように対応するかを話し合うものです。

参加者は、入浴中や就寝中の地震への対応などの問題を真剣に考えつつ、意外性のある意見には笑いが起きるなど、和やかな雰囲気の中で楽しく防災に取り組みました。

3/10

地域づくり^{がくしゅうかい}楽習会inさんぽく ゆり花会館

▶関係人口を活かすアイデアを意見交換



「関係人口を地域の取り組みに活かす」をテーマに地域づくり楽習会が開かれ、およそ60人が参加しました。

「関係人口」とは、移住者や観光者でない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことです。

大学生を受け入れた成功事例などから「関係人口をつくる」ポイントを学んだ参加者は、自分の集落で関係人口に手伝ってもらおう機会や内容などについて、グループで意見交換を行いました。

参加した女性は「関係人口は数より密度という言葉が耳に残りました」と話していました。

3/5

地域と協力隊のあゆみを報告 総合文化会館

▶パネルディスカッションでの高橋直人
隊員(左)



塩野町地域の地域おこし協力隊として3年間活動した高橋直人隊員の報告会が行われました。

第一部では、活動の振り返りとこれからの起業についての報告。第二部では、受け入れ地域の2人と高橋隊員によるパネルディスカッションが行われ、「お互いの第一印象は？」などの質問に、本音トークもとび出し、会場が笑いに包まれる場面も。

協力隊員と地域の人が、気心の知れた仲間になるまでの経緯を聞き、参加者は感心した様子で深くうなずいていました。